

清水崑マンガ原画等資料アーカイブ化事業

概要



清水崑（1912～1974）

ストーリーマンガを中心に世界で日本のマンガが評価を受け、電子マンガなど閲覧方法が多様化する中でマンガ文化は隆盛を極めていく。他方、新聞等に掲載された所謂「大人漫画」については、その存在が希薄になりつつある。昭和期に大人漫画家の中心であった、「漫画集団」については関係者が高齢化する中で、改めて彼らのマンガ史、近現代史上での位置づけを再考する時期に来ている。彼らは政治漫画、風俗漫画、著名人や演劇などのルポルタージュに本の挿絵や装丁など現在のジャーナリスト、イラストレーター、作家にも類する多彩な活躍が見られる。また、小説家、政治家、芸能人、出版人などと交友し、文化人としての一面も持っていた。

長崎市出身の清水崑（1912～1974）は、漫画集団の代表的なマンガ家の一人である。彼が描いた政治マンガは吉田内閣を中心に激動の戦後を、ユーモアを交えて伝えている。また、河童が人間のように生活するかっぱ漫画は大衆に広く受け入れられ河童ブームを巻き起こし、黄桜酒造の河童のCM、東京都民の日のバッジ、かっぱえびせんのキャラクターに採用された。

前述のとおり、清水を含む漫画集団に所属したマンガ家を知らない世代が増え、関係者が高齢化する中で、当該マンガ家たちの業績を明らかにする研究が急務と言える。また、漫画集団は現在主流のストーリーマンガとは異なる漫画の形態、掲載媒体、人的交流があり、この業績を検討することは、マンガ史の一側面を明らかにするとともに、近現代史の一端を明らかにする研究であると考えられる。あわせて、長崎市としては、多大な業績を残した清水を顕彰するとともに、長崎学の一環として研究を進めている。以上から、研究及び清水の顕彰の基礎となるマンガ原画のアーカイブ化が必須であると考え、本事業の実施に至った。



東京都民の日を記念した大東京祭記念バッジ

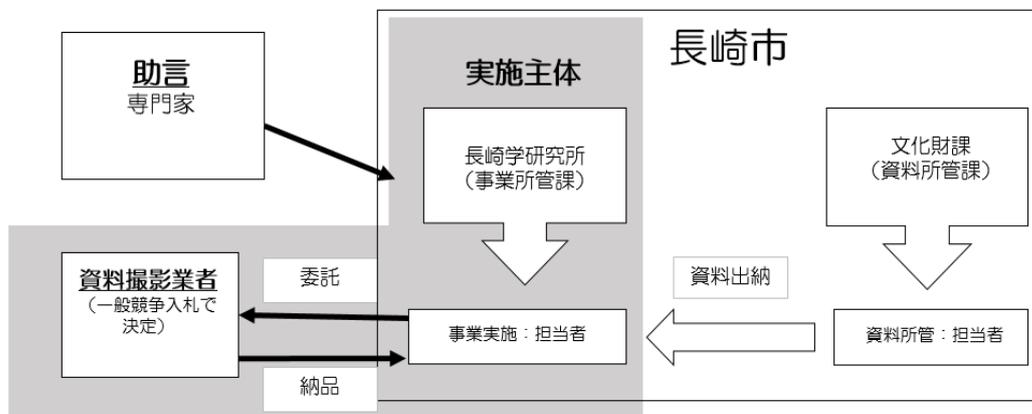


NHK テレビ連続漫画として放送された『かっぱ川太郎』の原画



朝日新聞に掲載されたルポ漫画の原画

マンガ原画等資料撮影



←学芸員が資料を配置、撮影業者がNO.と撮影時の画像配置をカメラの画面上で確認する。



←撮影された資料をパソコン画面で確認。更に、担当学芸員が当日画像を持ち帰り細かくチェックを行う。問題がある場合は、後日再撮影を実施。

○資料撮影事業については、事業所管課の長崎学研究所が資料撮影業者に撮影を委託し実施した。
なお、資料の取り扱いは長崎学研究所の学芸員が対応した。

資料目録の整備

清水崑マンガ原画等資料目録は、寄贈時に資料サイズや分類などの基礎情報が整理されているものの、原画がどの作品の物であるかなどの情報が不足している。このことから、原画の初出掲載雑誌、単行本などの情報を追記することで、資料の基礎情報を増やし研究等に利用しやすくなるように作業を行った。

方法：朝日新聞縮刷版、朝日新聞クロスサーチ、国立国会図書館デジタルコレクションを調査。

現状：目録への情報追加を継続しており、成果はHPに掲載。

成果：① 清水の掲載誌を追うことで、コレクションの特徴が明らかとなった。

② 文献を調べることで清水の業績の再確認ができた。

③ 戦後の文化史、政治史などを検討する上で参考資料となる可能性が明らかとなった。

④ 長崎と清水の繋がりがより明確となった。

成果

公開・成果物

- ① 清水崑マンガ原画等資料の高精細画像の撮影を実施
- ② 調査研究の成果を紀要『長崎学』第8号に論文として掲載
- ③ 清水崑マンガ原画等資料目録一覧のHP 掲載

長崎市長崎学研究所 HP：

<https://www.city.nagasaki.lg.jp/syokai/720000/724000/p040100.html>

- ④ 長崎外国語大学との資料の教材化連携の実施。

撮影した高精細画像などを利用した、MOOC（オンライン講座）上での講座実施。

<https://www.nagasaki->

[gaigo.ac.jp/recnas/mooc/SHIMIZU_Kon/](https://www.nagasaki-gaigo.ac.jp/recnas/mooc/SHIMIZU_Kon/)

- ⑤ 長崎市中央公民館講座、長崎市銭座小学校総合学習にて講座を実施した。

漫画家 清水崑の仕事

漫画家 清水崑の原画に関する動画を掲載しております。
当動画は講義の教材や自主学習の教材として、学内・学外を問わず自由に利用できます。

漫画家 清水崑の仕事



長崎外国語大学と連携した MOOC の公開

業務上で判明した事

- ① 清水の原稿の特徴

資料撮影を行う上で、原稿が折られて切り込みが入ったものや、赤鉛筆でタイトルや説明書きが入ったもの、掲載誌の印や取材のメモが裏に走り書きされたものもあった。また、紙に描いたものを別の紙に貼り付けてコマを作る、紙を上から貼って修正するなど清水のマンガ制作の特徴も見取れた。原稿の修正については、凹凸が出来る程に紙を貼り修正しているものもあり、清水の一筆に賭けるこだわりが見取れる。このような、原稿から読み取れる情報が清水個人の独自の原稿作成の過程を示し、また当時の出版や印刷技術に関する研究に繋がると考える。

- ② 長崎市所蔵清水崑マンガ原画等資料の特徴

資料の撮影及び調査を行ったことで、長崎市所蔵清水崑マンガ原画等資料には「かっぱ川太郎」、「かっぱ天国」、朝日新聞掲載の政治漫画や似顔絵という、代表的な作品の原画が多く残されていることがわかった。このことは、本資料群の特色といえる。

- ③ 清水と長崎の繋がり

清水と長崎の繋がりは、晩年長崎の年中行事をテ-



赤鉛筆での指示や原稿の加工が見られる。



「出発」原画

(『朝日新聞』1954年5月23日掲載)

マに同地で開催された、三回の個展が大きな出来事となっている。本事業では個展開催の経過を調査し、更に清水が長崎について書いた文章を分析した。文章には、清水が幼少期に経験した年中行事の思い出を書いたものが多く、長崎での三回の個展のテーマとの繋がりが見られる。

更に清水の執筆した作品にも目を向けると、大人向けの絵物語『絵本太閤記』と『長崎太平記』には長崎開港とキリスト教という長崎の歴史が登場する。これらもまた、清水の言説から幼少期の記憶と結びついていくことがわかった。以上の詳細を、調査研究の成果として紀要『長崎学』第8号に論文としてまとめた。



長崎で開催された「長崎の行事を遊ぶかっぱ展」に関する取材スケッチを貼り合わせた屏風。

文化的・社会的・経済的な意義

- 清水崑マンガ原画等資料目録及び朝日新聞清水崑関連記事一覧について長崎市長崎学研究所のホームページに掲載することで、研究者及び愛好家の資料へのアクセスを容易にし、周知、研究の進歩に繋がる。
- 研究成果を論考及び研究発表することで、学術的にも清水の業績や作品の研究が進みマンガ史上での位置づけを諮ることが出来る。
- メディア芸術に関する情報が集積された、メディア芸術データベースへの掲載を実現させることで、研究者及び愛好家の資料へのアクセスが活発になり、研究及び周知が促進される。
- 漫画集団の資料を有する館（京都国際マンガミュージアム、横山隆一記念まんが館、湯前まんが美術館／那須良輔記念館、千曲市ふる里漫画館）と繋がりが出来た事から、今後研究や情報提供・交換などで連携を行う。これにより、研究者、愛好家等の交流人口の拡大が期待できる。
- 関連するミュージアムとの研究連携により体系的に研究が進展することで、マンガ史及び近現代史上に清水崑の業績を位置付けることが出来る。
- 研究成果を基に市民向け講座などを実施し、長崎市民の清水崑の顕彰及びメディア芸術産業への理解に繋がることが期待できる。
- 清水崑マンガ原画等資料についてマンガ史・近現代史を研究する学生の教材となるよう大学等と連携を行う。このことは、清水崑について若い世代への周知に繋がる。

課題

- メディア芸術データベースへの掲載を実現させるため、目録の整理を進める必要がある。現状、情報追加を優先しているため、情報の追加の目途がつき次第進める。
- 現在、調査研究を中心に業務を進めており、あわせて研究成果の公開を実施している。一方で、市民向けのわかりやすい成果公開のやり方を検討する必要がある。
- 単独では出来ることが限られるため、同年代の漫画家の資料を有する館などメディア芸術に関

連するミュージアムや団体との連携を行い、広がりのある研究、活用が必要である。

○ 清水崑資料は複数館に収蔵されているため、全体像の把握には各館の調査が必要である。

※掲載画像の清水崑マンガ原画については、清水崑展示館所蔵となっています。